

教科	道徳	「正義」について考える。 (中1～3)
トロッコ問題(trolley problem) ◆ 問題1と問題2の違い 世襲し一人を犠牲にして五人を助けるべきである 行動自体は「分岐のしるし」に過ぎず、一人の死は(たとえ結果を承知の上でも)その意図の直接の結果ではなく副 次的な出来事(つまり巻き添え)と考えることが可能である。  ミニョネット号事件(R v Dudley and Stephens) ◆ 「ある人を助けるために 他の人を犠牲にするのは許されるか？」  → 功利主義と義務論の対立		
目的	「正しい行い」(正義)について、 ① 多くの人の幸福につながる行動(功利主義) ② 道徳規則に従った行動(義務論) であることを学ぶ。	
取り組み内容	I 「トロッコ問題」を題材(架空) 生徒に「トロッコ問題」の問いである 「1人の命と5人の命」を天秤にかけなくてはならない時、 あなたならどちらを選ぶかの問いを投げかける。 ① (直接手を加えず、ポイントを切り替えるだけの場合) 多くの人は5人の命を優先する(功利主義) しかし、同じ結果であっても、 ② (調節手を加え、自ら陸橋の上から人を押し、 線路上の障害物にしなくてはならない場合) 多くの人は道徳規則を優先し、1人の命を優先する(義務論) →社会は、多くの人の幸福につながる行動を選択するが、 それが道徳規則から逸脱する場合は、その限りではないことを学ぶ。 ※ミニョネット号事件は、実際に起こった事件	